

## 15 安田火災海上本社ビル

HEAD OFFICE FOR THE YASUDA FIRE & MARINE INSURANCE CO., LTD.

所在地／東京都新宿区西新宿 1—26— 1

建築主／安田火災海上保険株式会社

設計者／代表 内田祥三

星野昌一 松下清夫

高山英華 柘植芳男

勝田高司 齊藤平蔵

施工者／大成建設株式会社

清水建設株式会社

株式会社 鴻池組

竣工／昭和51年 4 月

Location／Tokyo

Owner／The Yasuda Fire & Marine Insurance Co., Ltd.

Design／Yoshikazu Uchida

Shoichi Hoshino, Kiyoo Matsushita

Eika Takayama, Yoshio Tsuge

Koji Shoda, Heizo Saito

Contractors／Taisei Corporation

Shimizu Construction Co., Ltd.

Konoike Construction Co., Ltd.

Date of Completion／April, 1976

## ●選評

小堀 鐸 二  
岡本 行 善  
窪田 祐

副都心新宿西口の超高層ビル群の中で、このビルの姿態の与える印象は確かにユニークというべきものであろう。建築が外観・外貌によってのみ評価されるべきではないことは万人の知るところであり、その限りでは人間の存在と同じであると思うが、違うところは生得で変えられない人間の姿態とは異なり、建築の場合は所与の条件があるとはいえ、その中で如何様にも秀でたものとして、これをつくり出すことが可能なことであろう。ただ生得で変えられないからこそ、人間の場合は優れた内面のにじみ出た傑作も生れてくるのかも知れないが。

ともあれ安田火災海上本社ビルは、その名のごとく、火災保険会社の本社ビルとして計画され、人間生命の安全を守るという至上のテーゼを具現化する上で極めて周到な配慮が加えられた。設計陣は元東大総長の故内田祥三氏を頂点に、星野昌一、松下清夫各東大名誉教授を両軸として、現役・退官の東大の先生方が多数参画しておられる。このような権威に支えられた建築の設計は稀有のことといわねばならないであろう。

まず、誰しもが目にとめるこのビルの姿態、末広がりな形は、地震・強風に対する安全感を表わしたいという施主・三好社長の強い要望に発しているとのことであるが、それがいわゆる柔構造ではなく、建物に必要な全体剛性を確保するという利点として構造計画的に活かされ、結果として揺れ幅（層間変位）の少ない安定性のよい構法に結びついて実現されている。そしてこのことはさらに、建築計画上の要請としての天井の高い柱間の広い玄関ホールの大空間の確保、また出入りの便利な低層階における大会議室、大談話室、大食堂等の収容をも可能とし、

従来、低層別棟ないしは低層階を拡げて設けられていたこれらの大広間のすべてを、一つの高層建築の中に形を崩さずに収めるという効果をも併せて生む結果となっている。つまり意匠と構造と計画の三者を末広がりな形態の中に、ものの見事に融和させることに成功しており、シカゴのファースト・ナショナル・バンクの単なる形態上の模倣とは次元を異にするものといえることができるであろう。

そしてまた、ビル防災計画については、損害保険企業による“防災モデルビル”の実現を目標に、レベルの高い内容をもつ防災センターの設置、中間避難階、両端コア方式による避難経路の確保、フロア別空調システムなどを採用して、ビル防災のひとつのお手本ともいえるべき施策を存分にほどこしている。1例を挙げるならば、各フロアとも中央に廊下をとり、防火、防煙上の区画として、その両端に避難階段を設け、日常動線を兼ねる簡単直截な避難動線を確保し、火災時の混乱の原因となる煙を避難動線上に流さないように、出入口廊下の要所の天井面に排煙口を設けるなど、万全の備えを誇っている。

施工に関して触れるならば、共同企業体の綿密な揚重計画の下に、準積層工法により入念で地道な施工が行われたことが一目瞭然である。昭和48年6月に起工され、同51年4月末日に完成をみているが、この建物を見ていると建築主・設計者・施工者のすぐれた協力体制の成果が年を経るほどにその度合いを濃いものにしていくように思われた。

## REVIEW

Takuji Kobori  
Yukiyoshi Okamoto  
Yuu Kubota

The unusual external appearance of this building resulting from the flaring lower section is certainly its most distinctive feature. But, just as a person should not be judged entirely on the way he looks, so this building should be estimated on more than appearance, for this unusual form has important meanings. First, it is a symbolization of stability, security, and steadfastness, characteristics of the greatest value in an insurance company. Producing an effect suggesting these traits was one of the client's most insistent requests. Second, structurally, the form results in a rigid, stable framework that undergoes little displacement in time of seismic tremor. Third, the flaring of the lower section makes it possible to house in one continuous, flowing form such spaces as a lofty entrance hall, conference rooms with convenient access, discussion lounges, and dining rooms, which must often be placed either in low rise annexes or in considerably expanded, low-rise blocks.

The design team for the project was headed by an unusually prestigious group of professors emeritus from Tokyo University.

As should be true of a building for a fire and marine insurance company, the client requested that this be a model of disaster-prevention planning and equipment. The disaster-prevention center is outfitted with the latest machinery. Escape routes are provided by intermediary staircases plus other staircases in the end cores. Each floor has its own air-conditioning system. The central corridors are divided into fire and smoke zones, and there are emergency staircases at the end cores. These corridors double as everyday means of communication from place to place, but to prevent smoke from causing panic in the event of disaster, exhausts are installed at intervals in the ceiling all along their lengths. The construction began in June, 1973; and the building was completed in April, 1976. The outstanding cooperation of the client, design team, and contractors will become more and more apparent as the building matures through use.

## ●概要

### 建築概要

敷地面積	9,298㎡
建築面積	4,343㎡
延床面積	124,438㎡
構造規模	鉄筋コンクリート造（地下6階～地下3階） 鉄骨鉄筋コンクリート造（地下2階～地上2階） 鉄骨造（地上3階～塔屋） 地下6階、地上43階、塔屋2階

### 仕上げ概要

外装 PCカーテンウォール 吹付けタイル  
低層部一部本石貼り  
内装 床：コンクリート（モノリシック）、Pタイル  
壁：プラスターボード2重貼り、化粧鋼板  
天井：岩綿吸音板（一部Tライン）

### 設備概要

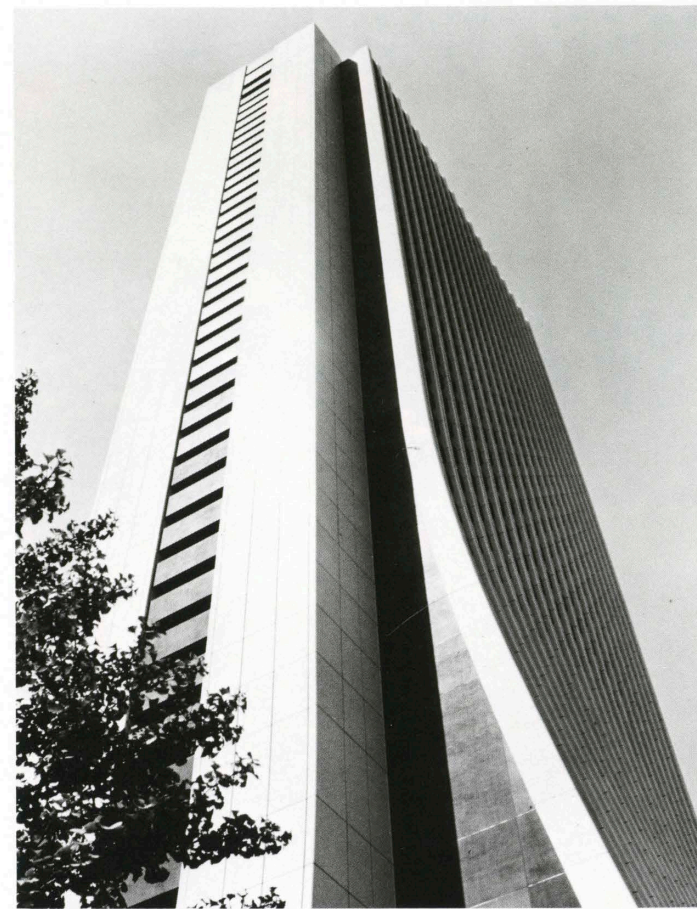
電気 受電22KV4回線スポットネットワーク／発電機、ビル電話、BGM装置、ビルディング・コンピューターコントロール設備、火災報知機、非常放送、非常コンセント、ページング、非常照明

給排水・衛生 給水：2管式 給湯：中央給湯、蒸気湯沸器、塵芥集中処理設備

空調 地域冷水蒸気使用 基準階：単一ダクト方式 特殊階：2重ダクト、VAV方式

昇降機 エレベーター：乗用24基（内非常用2基）、駐車場用2基、荷捌用1基、バーチカルコンベア1基 エスカレーター：7基

消火 中央防災管理室、全館スプリンクラー、泡消火、ハロンガス、ガス漏れ検出装置、排煙設備



コア部分見上げ Upward view of the core.



正面入口 Entrance area.



アプローチ Approach.



1階玄関ホール Entrance hall.



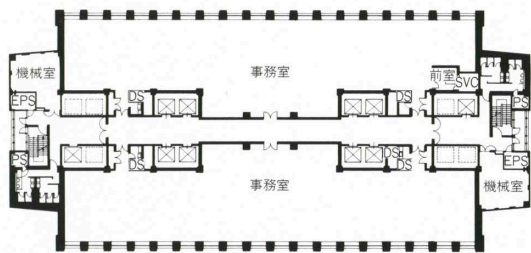
43階中央ホール Main hall on the 43rd floor.



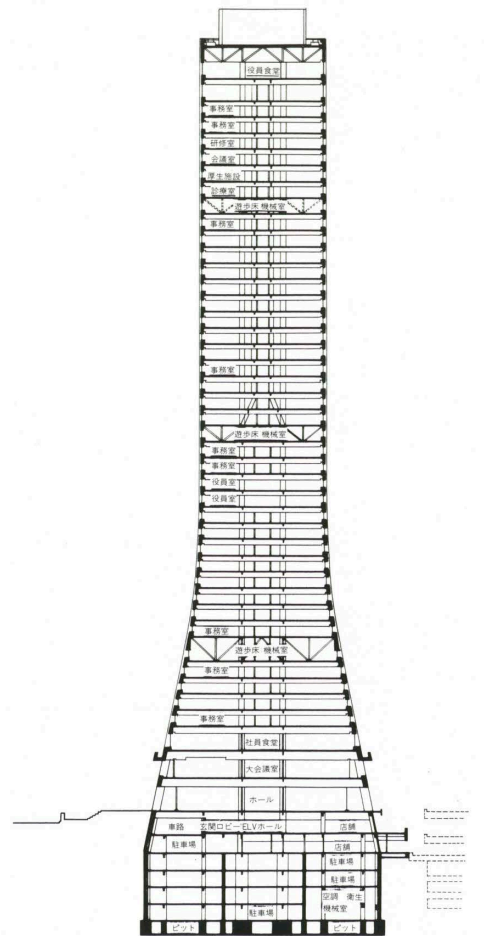
一般事務室 Office room.



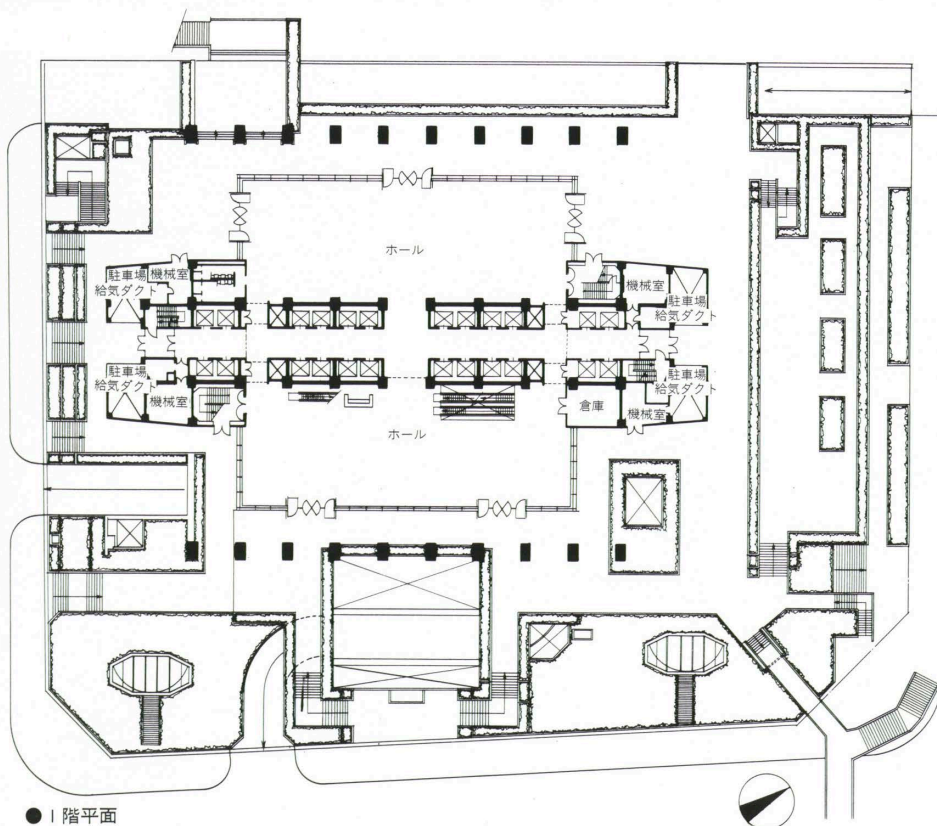
42階美術室 Museum on the 42nd floor.



●基準階平面



●断面



●1階平面